

## 2022年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2022年7月28日(木)15:30~16:30

### 全体

Q:1Qは、原材料価格の高騰影響が販売価格アップを上回ったが、更なる販売価格アップの可能性はあるか。

A:

・今後の原材料価格の高騰影響の度合いを勘案しながら検討していく。なお、年間では原材料価格の高騰影響で約70億円の減益、同レベルの販売価格アップを見込んでいる。

Q:中国ロックダウンの影響と今後の見通しは。

A:

・4、5月は影響を受けたが、6月以降は回復傾向。2Q以降も回復する見通しで、業績予想に織り込んでいるリスクの範囲内に収まるだろう。但し、ゼロコロナ政策が継続する限り、再ロックダウンの可能性があると認識しており、今後の動向を注視していく必要がある。

Q:年間業績予想を据え置いたが上振れ余地は。

A:

・為替レートが直近レートで推移すれば、売上高で約200億円、営業利益で約30億円のの上振れが期待できる。2桁億円の経費削減余地もある。事業では、需要が好調な器具や産業向け半導体などが上振れ要因になるだろう。市況や様々なリスクを勘案した上で、上期決算発表時に年間業績予想を見直す予定。

### パワーエレクトロニクス

Q:施設・電源システムやエネルギー管理の受注増加は、一過性のものか。プラント関連の価格転嫁の状況は。

A:

・施設・電源システムやエネルギー管理のお客様が、部品調達納期等を勘案し前倒しで発注していることが主要因。外資系データセンター向けの国内案件の受注が計画よりも増加している。  
・価格転嫁については、原材料価格の高騰影響等を踏まえ、見積段階で提案しているが、全てを価格転嫁することは難しく、コストダウン等の企業努力でカバーしている。

Q:カーボンニュートラル関連案件の受注状況は。

A:

・カーボンニュートラル関連案件の引き合いは増えているが、大幅な受注増加には繋がっていない。

Q:器具の受注状況と今後の見通しは。

A:

- ・計画に対し受注は好調に推移している。他社と比較して短納期で対応できていることが、受注増加に繋がっていると認識している。1Qは先行受注が継続したが、2Q以降は平常に戻る見通し。積み上がった受注残の消化に向けて、高操業を継続し、売上高は高水準を維持していく。

### パワーエレクトロニクス

Q:パワーエレクトロニクスの1Q実績が、対前年で減益となっている理由は。

A:

- ・コンポーネントは、中国のロックダウン影響により、お客様の工場が操業停止するなど、需要が減少し、工場の操業にも影響を及ぼした。プラントシステムは、顧客都合により、2Q以降に延伸したことが主要因。

Q:2Q以降の見通しは。

A:

- ・中国のロックダウン解除により2Q以降のコンポーネントは回復傾向の見通し。加えて、シェアアップに向けて新規開拓を進めている。部材のマルチソース化などにより操業を上げ、市況の変化に関わらず収益を向上させていきたい。

Q:設備工事やITソリューションの受注増加は、一過性のものか。

A:

- ・設備工事は前倒し受注によるもので市況の変化はない。ITソリューションは、文教向けが好調で、前倒し受注のほかに、シェアアップがあり2Q以降も期待したい。民需向けは、富士電機本体と子会社の富士電機ITソリューションの拡販施策により受注が増加している。

### 半導体

Q:電装向け半導体の1Q受注(対前年、対4Q)の内訳は。

A:

- ・1Q受注は、対前年で電動車は約40%増、エンジン車は15%減となった。対4Qは、為替影響を除けば電動車はプラスで推移し、エンジン車はマイナス。

Q:半導体の1Qの受注と売上に差異が生じている理由は。

A:

- ・受注は2Qに向けた若干の先行発注を含むものの、売上は自動車の減産影響を受けたことが要因。

Q:半導体(分野別)の2Q以降の受注見通しは。

A:

- ・2Q以降は増加の見通しであり、電装向けがけん引する。電装向けは、2Qは対1Qで20%増、3Qも増加する見通し。産業向けは、1Qは為替影響を大きく受けたが、為替を除くと、2Qは対1Qで数%増、3Q以降はほぼ横ばいで推移する見通し。

Q:世界的なマクロ市況の悪化により、半導体の市場や受注動向に変化はあるか。

A:

- ・当社対象の半導体市場で大きな変化はない。産業向けは、特にインバータ、サーボ、工作機械等のFA分野の強い引き合いが継続している。自動車向けは、足元では減産影響があるものの、将来に向けては需要増が期待できる。

Q:半導体の今後の見通しを踏まえると、8インチ生産能力増強は前倒しで進めているのか。

A:

- ・計画通り進めており、2022年度末の前工程の生産能力は、対前期末で約1.5倍の見通し。生産能力は3Qから徐々に引き上がる見通し。

Q:半導体の在庫状況は。

A:

- ・全体的に製品在庫は少ない状況が続いている。1Qは自動車の減産影響により、在庫は前期末に比べて若干増加したが、2Q以降に出荷されるため大きな問題ではない。

Q: SiCパワー半導体のウェハの調達状況は。

A:

- ・SiCは2024年から本格的に増加する見通しであり、2024、2025年の分はほぼ確保できている。それ以降は、長期的な契約を視野に議論している。

### 発電プラント

Q:発電プラントの増収増益の要因である再エネの大口案件を具体的に教えてもらえないか。

A:

- ・ニュージーランドの地熱発電だ。

以 上